

2023 AUTOBACS SUPER GT ROUND8 MOTEGI GT 300KM RACE GRAND FINAL

NISSAN MECHANIC CHALLENGE Race Report

日産栃木自動車大学校



この活動は下記のパートナー企業様に支えられています。



【GT300クラス レース結果】

2023.11.4(土):予選日

天気:晴れ / 路面状態:ドライ

予選 Q1:ドライバーはオリベイラ選手が担当。良好な路面状態の下、予選が開始されました。Aグループに割り当てられた56号車は1分48秒885をマークしたものの、あと一步及ばず予選 Q1敗退となりました。近藤監督は「決勝は表彰台まで必ず行かせる」と自信をのぞかせました。



2023.11.5(日):決勝日

天候:曇り一時雨 / 路面状態:ドライ→ウェット



13時06分、名取選手がスタートドライバーで決勝レースがスタート。

オープニングラップから4つポジションを上げると、天候が次々と変わる難しいコンディションのなか、ピットイン直前には1位となる力走をみせました。その後、36週目にピットイン。オリベイラ選手へのドライバー交代と燃料補給だけを行いピットタイムを短くして4位でレースに復帰しました。オリベイラ選手も次第に雨が強くなる中スリックタイヤでライバルを封じ込み、無事6位でチェッカーフラッグを受けました。この結果により、今シーズンをランキング3位で終わりました。



【近藤真彦監督インタビュー】



Q.今シーズンのレースの中で1番印象に残っている場面を教えてください。

A. 今シーズンは1レース1レースチームにとって良いや悪いドラマがそれぞれありました。その中でも優勝したということが1番大きいかもしれません。それがモチベーションに繋がっていくのですが、ただ落としてしまったレースも何個かあって今シーズン全体的には少し反省点多かったかなと思います。それでも、私たちが参戦しているGT300クラスのレギュレーションではGT-Rが厳しい条件でレースをしているのですが、その中で与えられた条件の中では、頑張ったこれたと思います。

【56号車ドライバーインタビュー】



Q1.今年 SUPERGT が開催されたサーキットの中で走っていて楽しいと思うサーキットと苦手だと感じるサーキットはどこですか？

～名取 鉄平選手～

A. 走っていて楽しいサーキットはオートポリスとかで、過去のレースの成績がいいもてぎも好きです。苦手なサーキットはそれ以外ですね。

～JP・オリベイラ選手～

A. 私は鈴鹿やオートポリスが好きです。これらは走っていて楽しいと感じるサーキットです。苦手だと感じるサーキットは菅生です。

Q2.このもてぎ戦が終了した後、楽しみたいことなどはありますか？

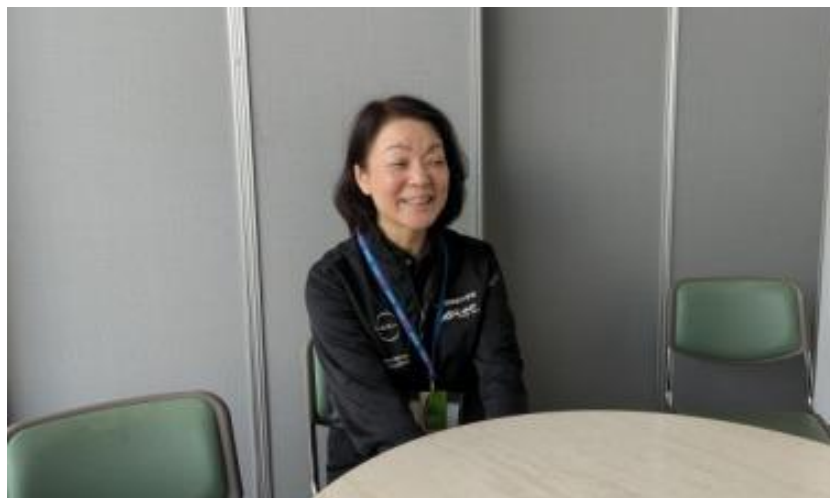
～名取 鉄平選手～

A. この仕事をあまり仕事と置いていなくて今のところ特にはないですね。ただレースが終わった次の日からレポートを作らないといけないので、それが終わったら寝たり、サウナに入ったりして体を休めたいです。

～JP・オリベイラ選手～

A. レースが終わったらディナーを食べに行ったりしてリラックスをしたいです。

【日産自動車大学校 学長インタビュー】



もとひろ
本廣好枝学長

Q.日産大学校の生徒たちがメカニックチャレンジを通してどのようなところを成長して欲しいとお考えですか？

A. この活動では通常の学校のカリキュラムでは味わえない様々な経験ができます。まず、学生が大人のチームの中に入っていろいろな大人たちとかかわること、学生がいろいろな人たちと話すこと、コミュニケーションの力みたいなものをこの活動を通じて味わってもらいたいと思っています。

次にチームで働くことがどういうことかという、1人ではこの活動はできませんがみんなの中でチームの一員としてチームワークって大事だということを学んでもらいたいと思っています。メカニックチャレンジと聞くと当然、メカニックを想像するかもしれませんが、その活動以外に人間的なコミュニケーションやチームワークというのがこの活動で大事だと思うのでそれを学んでほしいです。

【栃木校 校長インタビュー】



中村光之校長

Q.日産メカニックチャレンジに参加する前の学生と、参加した後の学生ではどのような成長を感じることがありますか？

A. 自分で物事を考えるということは、少なからずできるようになってきているのかなと思います。学校生活の中では特に栃木校は先生との距離が近いので、先生は学生さんに必要なとても多くのアドバイスを丁寧にしてくれています。それは良いことで栃木校の売りでもあるのですが、もしかするとそれが学生さんの甘えになっていて何でも先生に聞けば教えてくれるということになるかもしれません。皆さんが社会に出たときには先生たちはいないので、自分たちで考えなければならぬということになります。しかしこの活動を通して1人1人が自分で考えて行動するということができるようになっていっていると感じます。

【日産販売会社 テクニカルスタッフインタビュー】

日産プリンス栃木販売株式会社

小林 辰洋さん(栃木校第25期卒業生)

会社でこの活動の案内があり、以前からこの活動のことを聞いていたので参加しました。

もてぎ戦に参加してみて、チームの方たちと1週間一緒に行動して、全員が1つの目標に向かって各々別の仕事をしていると思うのですが、その仕事をレース本番に向けて連携しているところがすごいところだなと感じました。また、各々別の仕事をしているのでコミュニケーションがとても大切だなと感じました。車が好きな方は1回参加していただくと世界観も変わりますし、とても勉強になると思うのでぜひ参加してみてください。



日産プリンス栃木販売株式

菅野 優斗さん(栃木校第34期卒業生)

この活動は会社に入ってから知りました。もてぎ戦に参加してみて、通常の会社の業務では全く経験できないような作業ができたところがよかったですと感じました。部品ひとつひとつの取り扱いも緊張したり、走行後のタイヤなどもかなり熱くなっていたりといったところが苦労しました。ぜひ学生の皆さんも会社に入ったら日産メカニックチャレンジのような活動があると思うので積極的に参加してもらいたいと思います。



株式会社日産サテオ千葉

池田 譲司さん(栃木校第8期卒業生)

私はこの活動を会社からの展開で知り今回参加しました。参加してみるとレースには何十人、何百人の人たちが朝から1~2週間準備にかかわっていることが身に染みて分かって、すごい世界だと思いました。そして、小さいねじに関しても、トルク管理がしっかりとされていて絶対に間違えられないというのが苦労しました。生徒の皆さんも販売会社に就職して腐らずに頑張って続ければ、時々楽しいイベントも発生するので頑張ってください。



日産プリンス埼玉販売株式会社

前田 修平さん(栃木校第31期卒業生)

私が入社した時に、日産メカニックチャレンジに当社が加入するようになってからこの活動のことを知り、昔からGT-Rが好きで、応募条件の資格も取得できたのもあって応募させていただきました。今回参加をしてみて、日頃の仕事と違いコンマ1mm単位の調整などの細かい作業が求められる中での作業だったので、とてもいい経験になりました。私も車が好きという気持ちで這い上がってこれたので、日産自動車大学の生徒の皆さんも、必ず夢を持って突き進んでもらいたいです。



【参加学生インタビュー】

学生スタッフ総リーダー 篠原 弘行（一級自動車工学科3年）

この活動を通して学んだことは責任感です。初の総リーダーということで不安もありましたが、前回の経験と反省を活かし、責任を持って役割を果たすことができました。先生方や先輩方の助けもあり、無事に3日間の活動を終わられたことを大変うれしく思います。



【広報活動を振り返って】

広報リーダー 2年 小野寺 紀

今年のもてぎ戦での活動は前回の菅生戦の経験を活かして活動することができました。しかし各メンバーの役割を事前に決めることができていないなどの反省点も数多く見つかりました。今回の活動での反省点を活かし次回の活動ではより良いチームワークで活動したいと思います。

今シーズンの活動も Kondo Racing のチームの方や、スポンサーの皆様などでも多くの方々に支えられて活動することができました。この活動で得た経験をこれからの生活で活かしたいです。

【広報メンバー】

小野寺 紀
山口 竜河
秋葉 翔大
岡田 拓海

